

今月の一言 NO.226

キーワード：企業の役割

会社で働く人たちは、人生の圧倒的に長い時間を会社ですごします。家庭にいる時間より長いわけです。

すると会社で幸せなければ、何のために働いているかわかりません。働く意欲が落ちるので、会社にとってもけっしてプラスにならないわけです。

働く人が生き生きと喜びを持って仕事をしていれば、生産性も品質も上がります。

会社や仕事に対する愛着や忠誠心もあるので、経営危機に瀕したときは、みなで一丸となって困難を乗り越えるでしょう。人が財産になるのです。

お金のためにいやいや働いている社員と、幸せな人生のために、生きがいや喜びを感じながら働いている社員と、どちらの生産性が高いでしょうか。

私なら、喜んで働いてくれる社員を選びます。

1. 人から愛される喜び

仕事をしなくても得られる喜びかもしれません。ほとんどの人は、親や家族から愛されていますし、友人や恋人がいれば、喜びは満たすことが可能です。

2. 周りから必要とされる喜び

働いていなければ喜びを得ることや、感謝されることも難しいでしょう。

3. 周りのお役に立つ喜び

働いていなければ喜びを得ることや、感謝されることも難しいでしょう。

4. その結果、周りから感謝される喜び

働いていなければ喜びを得ることや、感謝されることも難しいでしょう。

働くということは、2. 3. 4の3つの喜びを得るということにほかなりません。家を一歩出て仕事場に行くと、この3つの喜びが、働くモチベーションになるわけです。

著者：近藤 宜之

目標に向かって、コツコツと！

令和2年10月23日

さいのう とおる

追伸：今年も、あと69日。やり残した事、これからやる事を確認してください。